

広島平和記念資料館 収蔵資料展

原爆の絵・被爆資料・新収集写真

1945年8月6日、この街で何が起こったか

広島に世界で初めて原子爆弾が投下されてから今年で72年が経ちます。近代的なビルが立ち並び、活気ある現在の広島街からは想像しがたいかもしれませんが、72年前の広島は見渡す限りの廃虚でした。また、多くの人が悲惨な姿で横たっていました。

広島平和記念資料館は、そうした被爆の惨状を時代を越えて伝えるため、1955（昭和30）年の開館以来、被爆した物や遺品、写真や絵など様々な資料を収集・展示してきました。

このたびの展覧会では、アメリカでの調査で2016（平成28）年に新たに収集した写真のほか、展示会場の目の前の通り（鯉城通り）の惨状を描いた原爆の絵、被爆資料を展示します。

1945年8月6日、この街で何が起こったか。被爆建物である旧日本銀行広島支店で、当時の惨状を想像してみましょう。



航空機から撮影された被爆後の広島—中島町方面から東を望む
撮影 / 米軍 所蔵 / 米海軍歴史遺産部



水をあげるとすぐに息を引き取った 絵 / 大田 晴代



白煙が充満する市街地 絵 / 駒田 保

展示構成

原爆の絵（OCR室）

「あなたが今いるこの通りで一鯉城通りの惨状—」

新収集写真（第2金庫室）

「2016年度海外資料調査速報展

—記録された原爆投下・廃虚の広島—」

被爆資料（第1金庫室）

「熱と炎のつめ跡」（内容は昨年度と同じです）

お問い合わせ先

広島平和記念資料館 学芸課

〒730-0811 広島市中区中島町 1-2

☎ 082-241-4004 FAX 082-542-7941

